



## 【我々が続くべき事】

聖書本文:使徒の働き9章31-35節/暗唱聖句:使徒の働き9章31節

説教者:鄭南哲牧師  
(Rev.Jung nam-chul)

アメリカの26代大統領だったルーズベルト(Theodore Roosevelt)は幼少年時は小人麻痺のため足を引きずったり、視力も、体力も極悪状態、喘息もちまに頻りに病気に悩まされていました。彼が11歳になった時、彼のお父さんはルーズベルトに“我が息子よ。君が持っている障害は障害じゃないんだ。君がもし本当に神を信じ、信頼すると、そしてイエスキリストが君の中に生きておられるなら、却って君の障害のため多くの人々が君を注目する事になり、きっと歴史の中で神話のような奇跡を残す素晴らしい人生を送る者になるだろう”と言われたお言葉に励まされ、イエスキリストを信じたようです。後にルーズベルトはお父さんのお話通りアメリカ歴史上一番暗い時期に大統領になって、神話見たいにアメリカを再建する大統領となり、1906年にはノーベル平和賞まで受賞することになりました。ルーズベルトがアメリカで偉大なリーダーになったのは決して偶然ではなく、必然的な事だったと言えるもう一つの実話が伝えて来られています。

ルーズベルトはホワイトハウスで働いている職員やその家族を招いてよく一緒に食事をする時間を持っていましたが、ある日職員の中でも掃除の仕事をしていたゼームスアモスという人の家族も招待されました。ルーズベルトは彼の家族のところにも来て声をかけて話している時に、アモスの奥さんと子どもたちがまだ一度もウズラという鳥を見た事がなかったと話して聞いて親切に詳しく説明をしてあげたようです。その日から数日経ったある日、ルーズベルト大統領は急に直接アモスの家に電話をかけます。びっくりしたアモスは緊張しながらどうしましたか?と聞いたら、ルーズベルト大統領はこう言いました。“アモス、今ね、早く家族連れてホワイトハウスに来れる。あなたの奥さんと子どもたちがウズラを一度もまだ見た事がなかったという話を聞いたんだけど、今ね、ホワイトハウスの裏の園にウズラ一羽が飛んで来て座っているのよ!”という話でした。真実なクリスチャンであったルーズベルト大統領の素晴らしさはいつも自分が会った全ての人々を愛そうと小さな事でも理解し、助けようとした事でした。それとも一度だけで終わったのではなく、一生どんな立場や状況になっても変わらずそういう姿勢や生き方をやり続けて来たというところではないかなと思わされます。

本日は2016年新年1月第2週目の主日朝礼拝です。昨年も我々の教会は 元の主の教会の姿である使徒の働きの初代教会を描きながら、そのようなクリスチャンの行き方、教会、家庭を目指して来ましたが、今年もさらにいろんな面でそのように目指し続けて生きたいと願います。今日の本文は使徒ペテロの姿に注目しながら新年、今月から我々が目指し、やり続けて行くべき事は何かあるか共に考えて見たいと思います。

## 1. 安住しないで、続けてあらゆる所を歩き回りました。

本文32節には、“さて、ペテロはあらゆる所を巡回したが、ルダに住む聖徒たちのところへも下って行った”と書かれています。この御言葉の先の31節に“こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。”という御言葉と連結すればさらに32節の意味が分かるようになります。31節を見ると、地上始めの教会である初代教会だったエルサレム教会を中心として始まったイエスキリストの教会たちが全てのユダヤとガリラヤと北のサマリヤまで平安のうちに広がり、祝福され、前進し続けたので、信じる者たちがますます増えて行く状況でした。

これを言いかえりますと、使徒ペテロはエルサレムから全土にわたってもう尊敬されていて気楽に牧会が出来る状況になってました。しかし、ペテロはエルサレムにとどまらず、あらゆるところに巡回しました。

愛するみなさん、人が一生一つの場所に定着する事もできず、あちこち巡回しながら、動き回るのはとても疲れて大変な事でしょう。家を離れば、とかく苦勞ではないでしょうか。しかし、別にそうしなくても良いのに、なぜペテロはエルサレムで安住しとどまらず、続けて巡回しながら、働いたのでしょうか。

ここで我々が関心を持ちたいところはペテロを含め、イエスキリストの弟子たちを当時“使徒(しと)”と呼んだということです。(ルカ22:14、使徒1:2、2:37、4:7、6:2)

“使徒(ギリシャ語Apostolos; 英語Apostle)”という言葉は新約聖書で108回使用されていますが、意味は“遣わされた者、派遣された者”というであります。これはつまり、“何か任務を任された使い、大使”という意味であります。

ここで、使い、任務を任された者はただ座り込んでいる人ではなく、主人が言われた通り、迅速(じんそく)に素早く動かなければならないでしょう。

## イエスキリストが天に上られる前に弟子たちに最後の命令として、使命として残して下さったその内容は何でしたか。

マタイの福音書28:18-20節にはこう書いてあります。“イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」”という内容だったため、使徒ペテロはこの主の御言葉に忘れないで従い、守るためにエルサレムにとどまらずに、また四方に回しながら働き続けたわけです。

ここで大切な事はイエス様は弟子たちにあらゆる所に行けとおっしゃただけではなく、イエス様ご自身もガリラヤからエルサレムはもちろん、当時ユダヤ人たちが憎悪(じょうお)し、軽蔑していたサマリヤと異邦の地ツロとシドン、デカポリス地方(マタイ15:21)まで回しながら、すべての人々に御国の福音を宣べ伝えて下さいました。

これを違って表現すると、イエス様はじっと座り込んで尋ねて来る人たちに福音を伝えたのではなく、少しも休む暇もなく人々に人々を捜し回しながら、天国の福音を宣べ伝えたのです。このように人々に行き福音を伝えたのが神が人を救われる方法でし

た。そのため、キリスト教の出発点がヨハネの福音書3章16節ではないでしょうか。

**“神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。”**このように神の愛と救いを伝えるために人を捜しに行く事がキリスト教の特徴であります。

聖歌493番にはこう歌われています。“わがとも主イエスはわれをみだし、引き寄せたまいぬ愛の意図持て、御そばに はべれば、何をかおそれん、今主はわが者、われは主の者”

愛するみなさん、今日は人を捜しに行くのが嫌な時代になりました。以前は人とよく一緒に時間を過ごしたり、交わったり、しゃべるのが楽しくて好きな時代でしたが、今日は限られてしまう人間関係、人代わりにペットやパソコンと遊んだり、一緒に時間を過ごす時代となりました。スマートフォンが出てからはさらに人と顔と顔を会わせて話すより、スマートフォンばかり見ながら時間を過ごす時代になり、このように人と交わらなくなるのはますますしんどくなりそうです。

しかし、神の恵みを受けた人たちはペテロがあらゆる所を巡回しているうちに、ルダに住む聖徒たちのところへも下って行ったように人を捜しに行きました。

これがキリスト教徒他の宗教の違いでもあります。すなわち、この世にあるすべての宗教の共通点は人が神を探し求めるのです。しかし、キリスト教は神が人を探しに来られた宗教であります。

確実なのは私がまず神を知ったのではなく、神がまず私を知っておられ、私がまず神を捜したのではなく、実は神が私を先に探しに訪ねて下さいました。私が神を愛したのではなく、実は神が先に私を愛し、私を救うために捜して来られたのではないのでしょうか。このように訪ねて来られたイエス様はまた弟子たちにもこう言われました。

マルコの福音書16章15-16節“それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。16信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。”

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

教会の門を開けておくだけではなく、出て行って神の救いを、助けを、愛を待ち望んでいる人々に行って神の福音を分ち合えるみなさんとなりますように切に祈ります。以前、この主の御言葉に迷わず、恐れず従っていたヨーロッパやアメリカから多くの宣教師の方々が日本にまで来られ、よく通じない言葉でも多くの日本人の心々に福音を宣べ伝えてくれたお陰で、今我々にまでも神の福音を聞ける今の時が許されたのではないのでしょうか。もうこの福音の負い目を持っている我々も今のところとどまらず、また出て行かなければなりません。ペテロのように我々も今の状態とどまらず、続けて神の助けと救いを待っている人々に出て行く事により、ますます、神の平安と慰めを与える教会とイエスキリストの弟子たちとなりますように切にお祈り申し上げます。

## 2.問題から逃げないで、イエス・キリストの御名によって積極的に解決して行きました。

本文33節には“彼はそこで、八年の間も床に着いているアイネヤという人に出会った。彼は中風(ちゅうふう)であった。”と書かれています。人が患(わずら)っている病気の中で良い病気なんかはないでしょう。人それぞれわずらっている全ての病気は痛いし、大変だし、苦しいことでしょう。特に中風という病気は当時精神はちゃんと持っているのに言葉もよく出ないし、体も普通に動けない病気のため、とても息苦しくする病気で深刻な問題でありました。

ところが、34節によると使徒ペテロは中風の病気にかかっていたアイネヤという人であってから彼にこう言いました。

**“アイネヤ。イエス・キリストがあなたをいやしてくださるのです。立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい。”**

ある意味で、ペテロ自分の力では決して解決出来る問題ではなかったですが、ペテロはそこから避けたり、逃げたりしないで積極的に取り組もうとしていました。ペテロのこの姿勢が大切ではないでしょうか。

なぜなら、人類の初の人アダムとエバが神の御言葉に逆らい、罪を犯してしまったため、エデンの園から追い出されてしまっただけでなく、地も呪われ、いばらやあざみなどを出したと創世記に記録されています。この意味は、この世の中でどこに行っても人が住んでいるところでは問題がないところはないという意味であります。

ですから、問題が生じるたびに逃げようと、避けようとしないで、その問題を解決するために取り組もうとする姿勢は大切に間違いないでしょう。我々が問題に直面する時、必ず覚えて続けるべき御言葉があります。第一コリント人への手紙10章13節の御言葉です。“あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出(だっしゅつ)の道も備えてくださいます。”という御言葉です。

そして、ヤコブの手紙1章2-3節には“私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。”と書かれています。

この箇所たちを言い換えると、生かされてうちに問題がまったくないようには出来ないが、問題をどう対応し、どう解決していくかによってその人の人格や人生が決められて行くという意味でしょう。全てを失敗として、過ちとして見るか、マイナス的に、否定的に見るために、問題が複雑で、面倒臭いから、その人と会う事を避けたり、周りが知らない所に引越したり、家で閉じこもってしまうケースが益々増えて行っているのではないのでしょうか。それはその問題からしばらく逃げようとするだけでその問題からの根本的な解決にはなりませんよね。

それともある方は神様がこの問題を許して下さったのは必ず自分に有益になるようにするためであり、きっと自分の人生にプラス的に、益とさせて下さる事だと信じて取り組んで行くかによってその人の事柄や人生観や価値観、信仰まで定められて行くでしょう。ですから、問題から逃げようと、避けようとせずにその問題を賢く、益となるように解決出来るよう神に智慧を求めつつ、神の智慧を求めて行くべきではないでしょうか。

そしたら、ペテロはどうやって目の前にある問題を解決する事が出来たのでしょうか。表ではまるでペテロの能力によって彼が病気

の問題を解決したかのように見えますが、決してそうではありません。ペテロ自身では決して解決出来ない問題じゃなかったでしょうか。ある意味で自分で解決出来るのは実は問題ではないかも知れません。実は自身で解決出来ない問題がはるかに多いのではないのでしょうか。そしたら、もう一度本文に戻りまして、ペテロはどうやって問題を解決しましたか。34節をもう一度見て見ましょう。本文34節に“ペテロは彼にこう言った。「アイネヤ、イエス・キリストがあなたをいやしてくださるのです。立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい。」すると彼はただちに立ち上がった。”と書いてあります。

今までペテロはいろんな病気にかかった人々を癒した経験を多く持っていました。例え、ルカの福音書9章6節“十二人は出かけて行って、村から村へと回りながら、至る所で福音を宣べ伝え、病気を直した。”、使徒の働き2章43節にも“そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって、多くの不思議なわざとあかしの奇蹟が行なわれた。”とも書かれています。そして続けて使徒の働き3章1-10節にも生まれつき足のきかない人を治した経験もありましたが、注目すべきところは、ペテロが病を負っている人々を治す時には必ず、イエス・キリストの御名によって行ったということです。(6-8節：“ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。」と言って、7 彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、8 おどりに上がってまっすぐに立ち、歩きだした。”)

愛する信仰の家族のみなさん！聖書とキリスト教の長い歴史が見せて証明して下さる事は不思議にイエス・キリストの御名によると、様々な問題が解決されたことでした。ですから、みなさん、今年も是非救い主なるイエス・キリストの御名を宣布して下さい。全能なる神であられるイエスキリストの御名によって祈り続けて見て下さい。イエスキリストの御名をよくよく用いて見て下さい。大変残念ながら、今日多くのイエスキリストを信じているクリスチャンの中でもイエスキリストの御名によりますと言いながら、自分をより前に立たせて、宣伝している場合が多いのではないのでしょうか。証しの中でも、メッセージの中でも、信仰生活の中でもですね。実は日常生活の中でも我々もなかなかイエスキリストの御名を全然使わないで、口から、心からも離れて行く場合が多いのではなかったでしょうか。人が自分の名前を出そうと、上げようとするため、何の神の御業を経験するのも、起こされる事もなかったかも知れません。ペテロと我々の違いはこれかも知れません。ペテロはいつも自分の名よりもイエス・キリストの御名のみを崇め、御名によって行い、御名のためにだけ仕え、働いたのではないのでしょうか。

今年も思わぬいろんな戦いや問題が起こりうるでしょう。自分の力ではどうしようも出来ない時、今日の聖書のペテロのようにイエスキリストの御名を用いて下さい。自分の解決出来ない悩み、問題をイエスキリストの御前に持って来て、すべてをさらけ出し、ゆだねて重荷を下ろして見て見ませんか。イエスキリストの御名によって自身の問題も解決され、他の人たちの問題のためにもイエスキリストの御名によって祈ってあげる事により解決される行く事により使徒の働きからの神の歴史が続いている事を共に経験して行く2016年すべての信仰の家族、家庭、教会となりますように切に祈ります。

### 3.人々を神に立ち返られるようにしました。

本文35節です。“ルダとサロンに住む人々はみな、アイネヤを見て、主に立ち返った。”と書かれています。

どんな事でもその結果が良い結果になる事を人はみんな望んでいるでしょう。

木の実の状態を見ると、その木が良い木であるか、悪い木であるか分かるように、今自分が注力していることや願っている事の結果が良くなる事をみんな願っていると思います。

そしたら、クリスチャンとして、良い結果って何でしょうか。

本文の結末を見て見ると、ルダという町で8年間も中風で患っていたアイネヤがイエスキリストの御名によって起き上がり、元気になった出来事により、ルダだけではなく、隣のサロンという町まで住んでいた多くの人々までみんな神に立ち返り、イエスキリストを信じるようになったという結果であります。

ペテロの名前が人気になったり、たくさんのお金が与えられたりなどの結果ではありません。

“主に立ち返った”と言うのは、その出来事を見て、イエスキリストの御名は真の神のである事を信じるようになり、神に立ち返るようになったという結果でした。自分の事で、回りが祝福されたことです。これが良い結果であります。

愛する信仰の家族のみなさん！今までみなさんの証し、行い、言葉遣いを見て、イエスキリストを信じ、神に立ち返った人が何人ぐらいましたか。もし、あまりそういう事がなかったなら、いつもイエス・キリストの御名による証しや生活、行いにならなかったかも知れません。“あなたの姿を見て、あなたの行いを見て、あなたの証しを聞いて、私も離れていた神にもう立ち返りたい！”という祝福の通路おして用いられますように、そのような神の素晴らしい御業がみなさんの人生の中にも起こされる一年となりますように切にお祈り申し上げます。

周りがよく変って行く時代に我々は住んでいます。しかし、大切なことを守りつつ、変らずやり続けて行くべき事もあるでしょう。

2016年新しい年が始まりました。また、新年を迎えられるように許されたこの一年、主の証し人として止らないで、神の御前でイエスキリストの御名によってまた立ち上がって勇敢に進んで行きましょう。今年も様々な問題と積極的に取り組み、神の智恵と力を頂きながら戦いつつ乗り越えて行きましょう。周りに助けが必要な人々にイエスキリストの御名によって祈り、助けてあげながら、主に立ち返って来る人々が増えて生きますように、我々を通して周りがさらなる神の祝福に預かることができます様に、そして、みなさんの人生、ご家庭、クリスチャンプレイズチャーチを通して今年もただ主の御名が崇められますように祝福し、お祈り申し上げます。アーメン！！

## 例え話【ばかの鳥と呼ばれるアルバトロス】

あまりにも長すぎて邪魔しすぎるように見える翼  
水掻(か)きのため、歩いたり、走る姿がおどけている鳥  
子どもたちが石を投げてもよろめいて逃げる鳥  
絶滅されていながらも一番掛(か)け易い鳥  
いくら羽ばたいてもなかなか飛び上がれない鳥  
昔から人たちがこの鳥はバカの鳥と呼んだ。  
しかし、台風が押し寄せて来ると、全ての命は身を隠し、息を殺している時、  
このばかの鳥は身を隠さないで、絶壁の上に立つ。  
その瞬間、長い翼がうごめく。  
風が激しくなればなるほど、身を風に乗せて任(まか)せる。  
ばかの鳥は絶壁から飛び下ろします。  
暴風雨(ぼうふうう)が吹きすさぶと、その時があほうの鳥には飛翔(ひしょう)する機会です。  
双翼(そうよく)伸ばし、張って大空を旋回(せんかい)をすると3メートルも越える長さ。  
この翼が空を覆い、海に陰を作る。  
六日間一度の羽ばたきもせずに飛べるし、  
2ヶ月の間に地球を一回回す事が出来るこのバカ鳥の本当の名前はアルバトロス。  
世界で一番遠く、一番高く飛べる鳥。  
一度も休まないで、遠い距離を飛べる理由は自分の力ではなく、風の力によって飛行するからだ。  
東洋では‘空を信じる老人’という意味で、‘信天翁’だと呼ばれている鳥。  
地の上では人々にあざ笑われていても、空では飛翔する時を知り、  
風を信じ、勇敢に絶壁で飛び下せる‘滑空(かっくう)の名手’と呼ばれる。  
神様から許された2016年、今、あなたがどんな姿でいても、どのように呼ばれても、  
あなたも飛翔するその時が必ず来ます。  
神の時を感謝と喜びを持って待ち続け、  
自分の力ではなく、聖霊の力によって飛翔出来ると信じる信仰によって、  
恐ろしくて息を殺している時にも勇気を出して一方踏み出す事が出来るでしょう。  
その時に、一番遠く、一番高く飛び上がっているアルバトロスのように、  
2016年飛翔し勝利する年となりますように祈ります。

詩篇37篇5-6節“あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。  
主は、あなたの義を光のように、あなたのさばきを真昼のように輝かされる。”